

平成24年度第1期えるのす連続講座～女性大学～

社会とつながり、心豊かに 開催結果の概要

月 日	演 題	講 師
5/29 (火)	アメリカ南部小説における女性たち	札幌市立大学デザイン学部講師 松井美穂
6/5 (火)	障害児とその家族への支援	北星学園大学短期大学部生活創造学科教授 藤原里佐
6/12 (火)	過疎地域の高齢者が そこに住み続けるために	北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科准教授 中田知生
6/19 (火)	ミドル世代の上手な生き方とは	札幌大谷大学社会学部教授 平岡祥孝
7/3 (火)	性差医療の観点から女性を診る	時計台記念病院女性総合診療センター長 藤井美穂
7/10 (火)	日本の惑星探査機	北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門教授 渡部重十
7/17 (火)	女性とプライバシー	札幌大学法学部法学科准教授 上机美穂
7/24 (火)	東山魁夷展	北海道立近代美術館学芸部学芸第二課学芸員 村山史歩
7/31 (火)	日本語とのつきあい方	北海道大学大学院文学研究科教授 加藤重広
8/7 (火)	現在（いま）を知る	北海道新聞社論説委員 川嶋信義

平成24年5月29日（火）

アメリカ南部小説における女性たち

札幌市立大学デザイン学部講師 松井美穂



マーガレット・ミッチェルとウィリアム・フォークナー。20世紀に入り女性のあり方が大きく変化した時、同世代の2人の作家はアメリカ南部における女性の生き方の変化に敏感に反応し、それぞれの描き方でそれを小説に表現しようとしていました。講義では、南北戦争以前の南部イメージが、南北戦争以降、南部人自身によりロマンティック化、神話化されていったこと、また、ミッチェルとフォークナーが小説の中でそれぞれどのように女性像、女性観を描いているかなどについてお話いただきながら、アメリカ南部小説をとらえて見られる女性や人種の問題について考えました。

平成24年6月5日（火）

障害児とその家族への支援

北星学園大学短期大学部生活創造学科教授 藤原里佐

障害児の母親は、熱心さや献身性を暗黙の裡に求められ、療育・教育の責任者としてケア役割を担ってきました。講義では、乳幼児期の母親役割が障害児の場合はより強調され、長期化、顕在化すること、また、障害児の家庭が普通の家族であるためには特別な支援が必要だが、最もニーズの高い障害児家族に子育て支援が届いていない実態などをお話いただきました。そして、障害児家族のノーマライゼーションを具現化するためには、障害児への対応や家族への支援に、専門家だけではなく、インフォーマルな関わりも不可欠であるとお話いただきました。



平成24年6月12日（火）



過疎地域の高齢者がそこに住み続けるために

北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科准教授 中田知生

過疎地域に住み続けたい高齢者が長く安心して暮らしていくためにはどうしたらよいでしょうか。講義では、高齢者が住みにくい過疎地域の現状や問題について説明いただくとともに、「まちづくり」を進め、地域で高齢者を支える仕組みを作ること、「男性中心社会」を見直し、地域活動に女性の目線を取り入れることなどが問題解決の方策になるとお話いただきました。そして、過疎地域だけでなく、都市部にも同様の問題が起こっている。都市においても、ここでの問題解決手法を用いることで、住み続けたい地域に変えていくことが可能とお話いただきました。

用いることで、住み続けたい地域に変えていくことが可能とお話いただきました。

平成24年6月19日（火）

ミドル世代の上手な生き方とは

札幌大谷大学社会学部教授 平岡祥孝

時代の潮流は「個」の時代、「生きがい」の時代から「生き方」の時代に変化してきています。講義では、自分だけの世界に閉じこもってばかりいるのではなく、人と直接会って会話をすることが社会の成熟に、また、ゆとりとゆたかさを持つことが人生の成熟につながるとお話いただきました。そして、成熟した人生は楽しまなければいけない。現役時代から試行錯誤し、制約がある中でよりよく生きるためにIQとEQを駆使して充実した老いとの向き合い方の準備をはかることが、「個」を楽しむことにつながるとお話いただきました。



平成24年7月3日（火）



性差医療の観点から女性を診る

時計台記念病院女性総合診療センター長 藤井美穂

男女では罹患率や疾患の発症原因、機序が異なります。性差医療とは染色体やホルモン分泌などの基礎からこの差に迫る新しい取り組みです。講義では、性差医療とは何かについて説明いただいた後、脳構造の性差や検査データ上の性差、また、認知症やアルツハイマー病は男性よりも女性に、がんは女性よりも男性に多くみられるなど、性差のある疾患などについてお話いただきました。また、女性は閉経を境に女性ホルモン（エストロゲン）が急激に減少することで尿失禁や骨

盤臓器脱が起こりやすいなど、性差とホルモンについてもお話いただきました。

平成24年7月10日（火）

日本の惑星探査機

北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門教授 渡部重十

惑星探査機開発には科学者や技術者の工夫と努力が満ち溢れています。講義では、先生自身がプロジェクトに関わった火星探査機「のぞみ」と金星探査機「あかつき」について、計画・設計段階の課題や打ち上げ後に待ち構えていた数々の苦難など、現場での様々なエピソードを紹介いただきました。そして、のぞみとあかつきの計画に費やした約20年間はトラブルの連続だったが、この時間は決して無駄ではなかった。失敗には必ず教訓があり、それが技術の発展へとつながる。次の若い人たちにしっかり伝えていきたいとお話いただきました。



平成24年7月17日(火)



女性とプライバシー

札幌大学法学部法学科准教授 上机美穂

近年、個人情報保護法などを通じ、プライバシー保護への関心が高まっています。果たしてこれは、どのような事柄を保護するのでしょうか？講義では、プライバシーの生成過程や、何をもってプライバシーと考えるのかなど、プライバシーとは何かについて、また、情報通信機器の発展がプライバシーに大きく影響を及ぼしており、現在は情報プライバシーと私生活(私的領域)のプライバシーの2種類からプライバシーを考えるようになってきていることなどをお話いただくとともに、具体的な問題や事例から女性・家族の生活にあるプライバシーについて考えました。

平成24年7月24日(火)

東山魁夷展

北海道立近代美術館学芸部学芸第二課学芸員 村山史歩

清澄で深い情感をたたえた風景画により、世代をこえて人々の心をとらえてきた東山魁夷。自然と真摯に向き合い、思索を重ねながらつくりあげたその芸術世界は、日本人の自然観や心情までも反映した普遍性を有するものとして、高く評価されています。北海道立近代美術館講堂にて特別展「東山魁夷展」を解説いただいた後、各自にて特別展を自由観覧しました。

平成24年7月31日(火)



日本語とのつきあい方

北海道大学大学院文学研究科教授 加藤重広

私たちが日常用いる日本語。その日本語をどう捉え、どう理解すればよいのでしょうか。講義では、日本語には2つの相反する言語観が見られることや、社会的状況として近年はIT化により日本語の民主化が進んでいること、また、科学的に捉えると、日本語は話者数・学者数から見て大言語であるが、日本人にはそういう自覚がないことなどについてお話いただきました。そして、日本人は言い切ることに對して抵抗を感じる傾向がある。日本語は文を閉じない「だらだら」。それが悪弊とは言えないが、状況に応じて使い分けることが必要とお話いただきました。

平成24年8月7日(火)

現在(いま)を知る

北海道新聞社論説委員 川嶋信義

法案が参議院を通りにくくなり、政権運営が行き詰まりやすくなる「ねじれ国会」。講義では、参議院の選挙結果を振り返ると野党勢力が勝つことが多い。これは政権の独走を許さないという有権者の意志の表れではないか。ねじれ国会のもと、きちんとチェック機能をはたしているのが参議院に対する評価の分かれ目ではないかとお話いただきました。また、「内閣不信任決議案」「解散総選挙」などについて解説いただくとともに、政界再編がはじまったときには、議員の本質を見極めて投票することが大切なのではないかとお話いただきました。

